サヨナラ 鷹王手

中村開き直り 千金3ラン

【ソフトバンク－阪神】延長10回、劇的なサヨナラ3ランを放ったソフトバンク・中村は両手を挙げてガッツポーズ＝ヤフオクドーム（山田俊介撮影）

救援陣 無失点好投

東浜・森・五十嵐・サファテ

「よくつないでくれた」。秋山監督が称えたのが無失点でしのいだ4人の救援陣だ。

アピールする」

開催報告 2020年につなぐ、都市での木づかいシンポジウム

今こそ、地方とつながる「都市での木づかい」を

世界に誇る、日本の技術と文化を生かして

「世界有数の森林国」日本は、国土の約3分の2が森林で覆われており、豊富な森林資源が蓄積されている。近年では都市での大規模な木造建築を可能にする技術革新も進んでいるなか、地球温暖化防止や、人の心身をリラックスさせてくれる効果がある木材が、ますます注目されている。10月10日には東京都千代田区で、「木づかい推進月間2014記念「2020年につなぐ、都市での木づかいシンポジウム ～建築家と語る、都市建築物での木材利用の未来」」が開催された。

地方創生にもつながる「都市での木づかい」

林野庁 木材産業課長 小島 孝文氏

シンポジウムでは、林野庁木材産業課長の小島孝文氏、建築家の山梨知彦氏、山田敏博氏の基調報告があった。

小島氏は、戦後の日本ではスギやヒノキといった製材用の樹種を中心に植林が進められたこと、その結果、植林された人工林の蓄積は50年間で5倍に拡大し、全国に豊富な資源が生まれていることを説明。「地方では今、地域の資源を活用した産業創生が求められています。豊富な森林資源を積極的に活用する時期がきている」とした。

活用のためには、都市部での木材利用などの「出口」を作ると同時に、安定供給体制を確立することが重要。「日本は資源小国といわれますが、国土の大部分を占める森林を適正に使い循環させることで、日本全体の成長につながります」（小島氏）。具体的な施策として（住宅以外も含めた）都市における建築物での利用促進があり、そのための法改正なども行っている。

都市建築物での木材利用のポイント

建築家 株式会社日建設計 執行役員 設計部門代表 山梨 知彦氏

山梨氏は2009年、木材を多用した「木材会館」（東京木材問屋協同組合／江東区）を手がけた経験から、日本の木材利用の課題として「都市建築に木材が使われていないこと」「木材を使うための技術が一般化されていないこと」「木材が高級化して現実的に普及しにくいこと」を挙げた。

解決のために提案するのは、いきなり全部木材にするのではなく、適した箇所から用いる「適材適所」。経年変化にともなう「エイジング」の魅力、火災時の煙の制御などを設計に盛り込む「安全性」、コンピューターを活用する「生産性」の観点だ。

山梨氏は新国立競技場など、オリンピックに関わる施設に木材を使用することを提案している。それだけに「木の魅力を次世代に引き継いでいけるか、今の世代の木材利用にかかっている。2020年への動きは大きな機会」とまとめた。

内外に木材を用いた「木材会館」

法改正と技術開発で広がる都市木造

一方、山田氏はNPO法人で、伝統や慣習にとらわれない木造建築を模索。特に都市での大規模木造建築を「都市木造」と呼び、積極的に提案している。

「法改正に加えて木材加工の技術革新が進み、大規模木造建築を可能にする耐火・耐震性に優れた木質材料が出てきています。大規模な木造建築が建てられる環境が整い、『都市木造』も実際に建ち始めています」と話す。

今年9月には、2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技場周辺や、さらに開催後の街のあり方まで、木造の観点から提案する展覧会を実施。大きな反響を呼んだ。「木を中心にしてつくられた街を、ぜひ想像してみてください」

建築家 一級建築士事務所HUG代表 (NPO)team Timberize 理事 山田 敏博氏

選手村を中心にした五輪後の街の提案（写真／浅川敏）

パネルディスカッション「建築家と語る、2020年に向けた都市建築物での木材利用」

都市と地方の絆をつなぎ、木に包まれた心地よい街づくりを

木材が開く、新たな街づくりの可能性

続いてのパネルディスカッションでは、木材の魅力を皮切りに、活発に意見が交わされた。

まず隈氏が、日本人が持つ木造への愛着を挙げると、山梨氏は肌触りや香りなど、木の情緒的な魅力に話を進めた。「20世紀の建築が忘れてきた、温もりや香り、経年変化のわびさび…。木が本来持つ良さを、21世紀の建築家が引き出すべき」というのが山梨氏の持論で、木造は設計の自由度が高いことにも良さを感じている。

一方で山田氏は、素材に着目して設計やデザインをすることをテーマに活動。2000年の建築基準法改正で、大規模な木造建築が可能になった際に「都市建築の主役ではないと思われていた木材を使えば、都市部に新しいデザインが生まれるのでは」と予感し、木を使った作品を発表し始めたという。

では、都市での建築に木材を多く使ってもらうにはどうすればよいか。隈氏は、木材の色などが経年変化するエイジングについて、広く理解してもらうことを挙げた。発注者側に対して「無理強いではなく、コミュニケーションを取るうち先入観がなくなり、エイジングの良さを分かっていただけることは多い」。

山田氏は展覧会を都内で開催した際、展示物の木の香りに引かれて会場に入ってきた人に出会った。「無味無臭だったこれまでの都市のイメージが、それに物足りなさを感じ始めているのかもしれない」と、木が見直される契機を感じている。「木材は、都市と地方をつないでくれる素材でもある。地方の方々が東京の街づくりに参加することで、街が変わっていくのでは」

小島氏はそれに応じ「東京・大阪という大都会だけでなく、日本全体をどうしていくか考えることが重要。互いの人の交流が生まれ、各地が活性化すれば」と期待を述べた。

2020年は、木が香る街で「おもてなし」を

新国立競技場の設計に携わる山梨氏は、ベンチに木材を用い、そのための「寄進」を募る構想を提案している。日本人として「世界の人をおもてなしする。優れた素材は木材。そして東北の復興や、福島の安全性などの象徴として、福島の木材が使用できれば素晴らしい」。寄進の一部は、苗木として山に返される。「植林から伐採までは約60年周期。2020年に使う建材は、1964年の東京オリンピック誘致が決まった頃に植えられたもので、今回も木を使うだけではなく植える活動をしたい」のが理由だ。

今後、都市で木づかいしていくうえで、隈氏は「木材は熱をもちにくく香りがよいなど、都市のミクロな問題を改善する効果があります。建物や街路などに木が多ければ、快適に歩ける街になるので、訪れた人が『東京は気持ちがいい』と思ってくれる」と力説。それを通して、日本人が持つ世界一の木材加工の技術や、素材への繊細さをアピールでき、国際競争の武器にもなると話した。

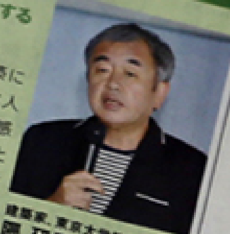
さらに「オリンピック・パラリンピック後の街づくりを視野に入れた仕掛けを」と山田氏が続く。「木材は再加工しやすく、手で触れた愛着を残しやすい素材。大会をピークではなく、スタート地点としてほしい」と提言した。

それを受け小島氏は「オリンピック・パラリンピックで地方の木材を使うことは、日本各地が開催に関わる意味でも意義がある。終了後は各地に戻して使ってもらうことで、一過性に終わらず、次につながっていけば」と展望した。

多数の参加者が詰めかけ熱気にあふれた会場

木づかい推進月間2014記念「2020年につなぐ、都市での木づかいシンポジウム ～建築家と語る、都市建築物での木材利用の未来」（林野庁補助事業）
【主催】（公社）国土緑化推進機構、（一社）全国木材組合連合会 【共催】（NPO）活木活木森ネットワーク

基調講演 地域で拡がる、世界で拡がる、都市での木づかい



建築家、東京大学教授 隈 研吾氏

木は世界に「日本」を発信する武器になる

世界各地で建築に携わるなか、日本人の木を扱う技術・感覚は世界一であることを実感します。製材品だけでなく、建築物や家具、日用品などを作る技術を含めて輸出すれば、世界に「日本」を発信でき、国際競争の武器となります。それには国を挙げて木材利用を促進する機運を高めることが重要であり、そこから世界の中で、日本の位置を確固たるものにしていけるでしょう。

街の足元まわりから木材利用を

2020年に向けては、道路の舗装、歩道、ベンチといった足元まわりなど、可能な部分から木材利用を。技術の進歩で燃えにくく、腐りにくくする加工ができ、色が変わって嫌なら、面を変えての再利用もできます。人間は本来動物なので、木が増えれば触れたくなるし、優しい気持ちになれるでしょう。適切な木材利用は、地球温暖化防止にも効果的です。特に重要なのが地域の木材利用で、海外では、施主が建築物の環境評価を考慮して、地域資源を積極的に使用しています。日本でもそうした動きが増えることを期待しています。

地域で加工した木のみで建てた「梼原 木橋ミュージアム」

その木、どこの木？ 木材利用ポイント

木材利用ポイント事業のポイント付与対象期間は9月末で終了しましたが、ポイント申請受付期間は2015年5月末までです（ポイント発行額が予算額に達した場合には、その時点で発行終了となります）。ポイント対象の住宅を建てられた方は、お早めに申請を！

詳しくはこちら http://mokuzai-points.jp/

interview

癒やしとおしゃれを演出する「木のある暮らし」

建築士・食空間コーディネーター 慈道美奈子さん

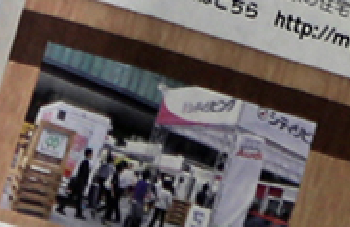
木を取り入れ、食空間をおしゃれに

今回は女性に向けて「木のある暮らし」をテーマにテーブルコーディネートを提案しました。女性をおもてなしする場合は、トータルのイメージづくりが重要。そこでインテリアや食器など、木の材質や色、デザインが統一感をもつように選びました。最近は新しい感覚の木製品も多く、選んでいて楽しかったですね。そして、「いつ」「どこで」「何を」「誰と」「どのように」「何のために」食べるのか考えながら、空間を設計して…

日本の森の木で、リラックス

注文住宅の設計に携わった経験もありますが、木の良さは、五感を癒やす効果。特にヒノキなどの国産材はさまざまな感覚を刺激し、リラックスさせてくれます。暮らしに気軽に取り入れていただくなら、箸やスプーンに木製品を選べば、肌で温かみを感じられ、木の香りも楽しめますよ。

国産材の家具は、特定の…



木の魅力を…

えりすぐりのお…

イベントレ…